工事は最終年に突入

工事の本格着工から終了まで④
～平成8年度（1996年10月）

平成7年6月

平成8年8月

県庁舎 8代目 誕生ものがたり

県建築士事務所協会、県設計監理組合顧問　﨑元 博典　22話

工事は、特に大きな問題も発生せず、下請けを含む工事業者・建材メーカー等の皆様のご努力により順調に進んで行きましたが、後半、県職員と工事監理JVのスタッフを悩ませたものの一つが、工事費に係る増減項目の調整でした。

現在は、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の第7条において、設計変更が発注者の責務として法的に位置付けられており、発注者と受注者がともに設計変更について十分に理解し、設計変更が適切かつ円滑に実施されるよう求められていますが、30年前の現場ではどうだったのでしょう。

さて、平成7年6月には、南駐車場工事を発注。9月には、外構工事を発注。そして10月に議会庁舎と行政庁舎の上棟式が行われました。

工事の最終年となる8年（1996）に入り、5月にインテリア家具工事を発注。6、7月には、植栽工事を発注。10月の落成を目指し、敷地全体がフル稼働し、現場は、最後の追い込みに入りました。

竣工間近になると、3庁舎本体工事と外構工事のせめぎあいなど工程調整が厳しさを増していきました。特に実施設計時の話の中で地盤高さの設定について説明しましたが、防災面への配慮から、設計G・Lを現況（着工前）G・Lから、約1・5m嵩上げすることとなっており、また、行政庁舎2階県民ホール東の展望デッキ側は、同じ2階レベルまで土塁状に土を盛る計画となっていました。

庁舎本体工事側は、最終仕上げ工程でピリピリしている中に、外構工事では、庁舎の足下まで大量の土を盛らなければなりません。庁舎の出入り口付近は、苦肉の策として一部、スタイロフォームを使用しての嵩上げ案が採用され、地下躯体上部の荷重低減という副次的なメリットも得られ、何とか取り合い部の難所を切り抜けました。

行政庁舎上棟式（平成7年10月）

（写真提供・鹿児島県庁舎建設記念誌）

植村組

階層別レベルアップ研修
若手は強み分析し目標

植村組（植村一社長）は、5月から7月までレベルアップをテーマに階層別の社員研修を実施している。4日は20歳代以下の若手社員約30人が入社時と比べて成長したことや自分の強みを自己分析し、2027年3月へ向けて理想とする姿などの目標を立てた。

自分の課題を明確化した＝薩摩川内市の同社川内支店

4年前から全社員約200人を対象に実施。SDGsの観点から職場の環境改善や社員のコミュニケーション向上に取り組んでいる。今回、管理職が「部下育成」、中堅管理職や現場責任者は「問題解決の基礎」や「中堅社員の働き方」、20歳代以下が「若手社員戦力化」などをテーマに全7回開く。

薩摩川内市の川内支店であった20歳代以下研修は、土木・建築・総務など普段、コミュニケーションが図られていない社員をグループ編成。6グループのワークショップ形式で行われた。

九州経済研究所経営支援部の江藤緑氏が講師を務め、入社してからの歩みを振り返り、自分の課題の明確化や先輩社員としての自覚などを目標に行われた。参加者は、ワンランク上げるための取り組みとして、自分の強みを実際に書き出し発表したほか、隣席社員の長所等を伝えるなどして、コミュニケーションの取り方を学んだ。

江藤氏は「仕事を客観的に見て、自分のできることを今後の目標に組み込んでほしい」と呼び掛けた。

ヤマグチ

AI交通誘導システム
省人化に期待大

ヤマグチ（山口克典社長、霧島市）は、湧水町で施工した「第3号県単道路整備（舗装補修）（0県債・幸田工区外）」で、AIを活用した交通誘導警備システムを導入した。警備員の負担軽減や省人化、安全性向上につながるものと期待が寄せられる。

施工箇所は県道菱刈横川線で、S字カーブの道路を片側交互通行にして警備を実施。工事区間の中間部にカメラを設置し、AIがリアルタイムで交通量を分析、待機時間を調整しながらスムーズに通行車両を誘導した。

警備員の負担軽減も期待されるシステム＝湧水町の現地

警備を請け負ったFCガード（山下晃司社長、宮崎市）鹿児島営業所の藤崎憲吾主任は「弊社の同システム導入実績としては、県内で初めて採用いただいた。警備業界は人手不足が大きな課題となっており、このシステムが少しでもお役に立てれば幸い。県内外に広く浸透するように働き掛けていきたい」と話した。

ヤマグチの小山侑紀現場代理人は「現場は枝線も多く、見通しも悪かったので警備員も配置したが、通常よりも少ない人数で済み、省人化につながった。現場の効率化や生産性向上も期待できるので、今後も積極的に導入していきたい」と感想を述べた。

宇都電設が研修会
感謝の大切さ学ぶ

宇都電設（宇都健三郎社長、鹿屋市）は7日、鹿屋市のリナシティかのやで創業記念日に併せた研修会を開いた。社員や取引企業の担当者ら約40人が参加。職場における感謝の示し方や自身の役割などについて改めて認識を図った。

自身の役割を改めて認識する機会となった＝鹿屋市のリナシティかのや

同日は、ブルーム社会保険労務士事務所の三浦結花代表を講師に招き「感謝と役割でつながる職場～心して取り組む仲間であるために」と題して研修会を実施。より働きがいがある職場づくりに向け、今ある現状を当たり前のことと捉えずに感謝の心を言葉で伝えることの大切さなどについて改めて学んだ。

「全社員の陰に陽に幸福の元でありたい」を経営理念に掲げ社員の幸福度向上に向けさまざまな取り組みを進める同社。宇都社長は、「社員あっての会社。社員の協力があってこそ会社が発展していくものと考えている。社員全員が安心して働ける職場環境づくりにさらに取り組んでいきたい」と述べた。

また同日は、鹿屋市の同社で安全祈願祭も実施。宇都社長、宇都翔太専務ら社員が出席し、神前に玉ぐしを捧げ、今年1年の無事故無災害と社業発展を祈願した。同社は、1982年7月5日に創業。毎年、創業日に合わせて祈願祭を実施している。